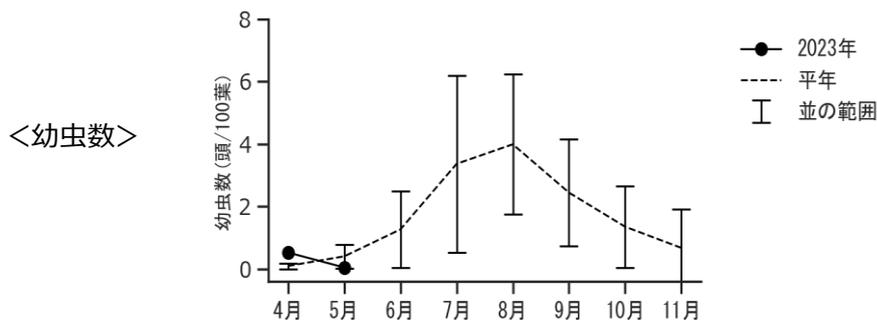
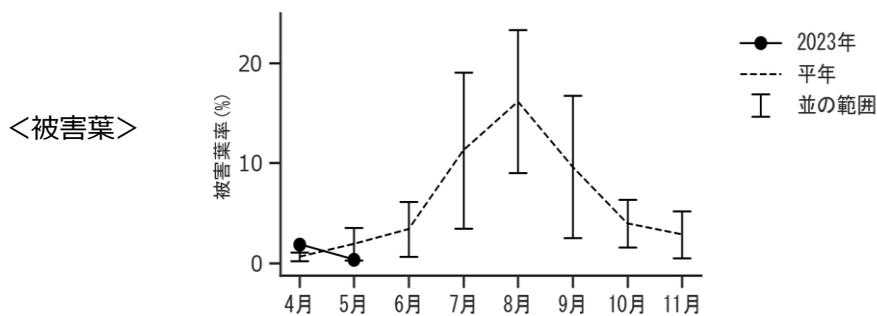


作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	① イモキバガ		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	5 月からの増減傾向	↗	
	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の発生推移



・発生ほ場率25.0% (平年 : 70.7%)、一部ほ場で多発

防除のポイント

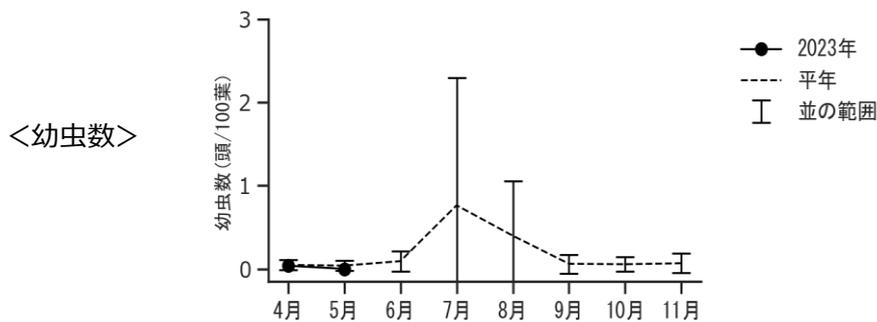
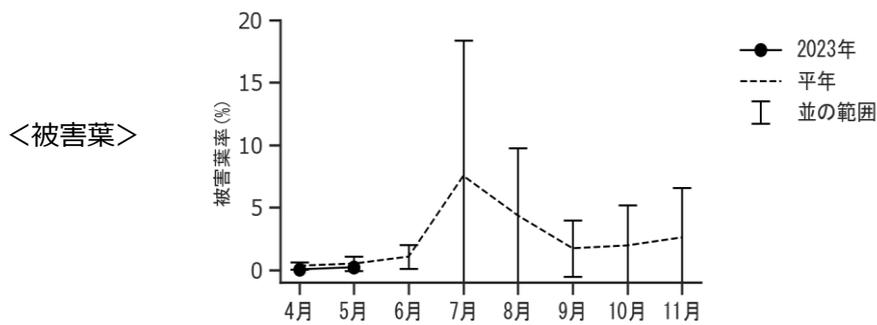
- ・老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。
- ・つづられた葉の内部に潜んでおり、直接薬剤がかかりにくいいため浸透移行性のある薬剤を使用する。



作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	② ナカジロシタバ		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	→	
	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今期と平年の発生推移



・発生ほ場率12.5% (平年 : 27.6%)

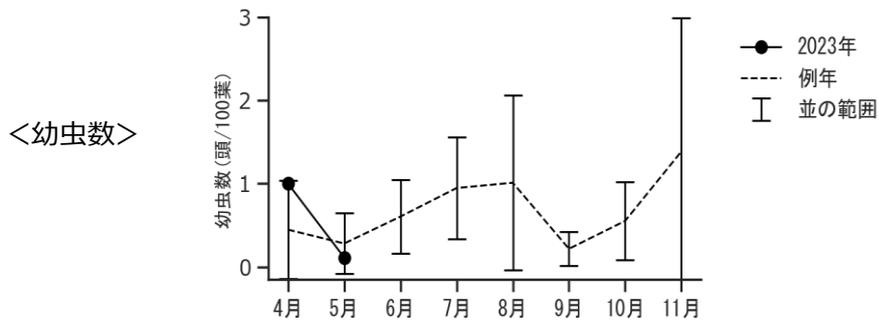
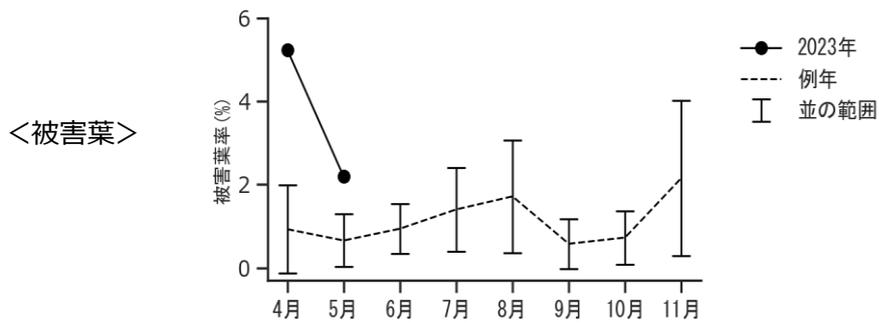
防除のポイント

・老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。

作物	カンショ		地域	沖縄群島
病害虫名	トリバ類			 <p>サツマイモトリバ</p>
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報	5 月からの増減傾向	↗		
	6 月の発生量 (例年比)	やや多		
予報の根拠		例年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

今期と例年の発生推移



・発生ほ場率100% (例年：45.2%)

防除のポイント

・発生初期の防除が有効であるので、新しい食痕を見つけたら近くに幼虫がいないか調べて捕殺する。

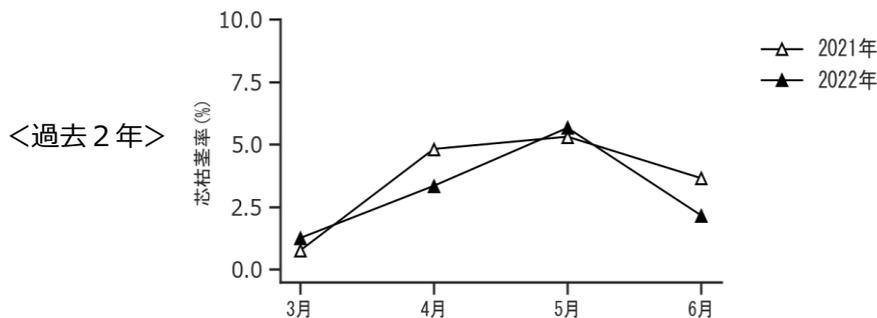
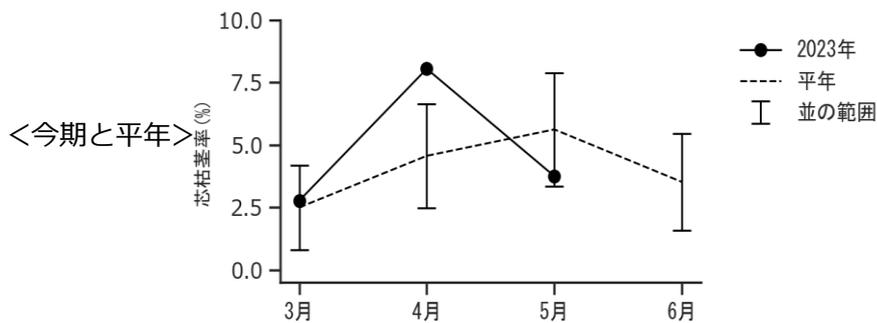


被害葉

作物	さとうきび		地域	沖縄群島
病害虫名	① メイチュウ類(カンシャシクイハマキ・イネヨトウ) (株出し)			
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並		
予報	5 月からの増減傾向	↘		
	6 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)		

調査結果

芯枯茎率の推移



- ・ 茎内で発見したメイチュウ類のうち、優先種はカンシャシクイハマキであった。
- ・ 発生ほ場率100% (平年 : 96.1%)

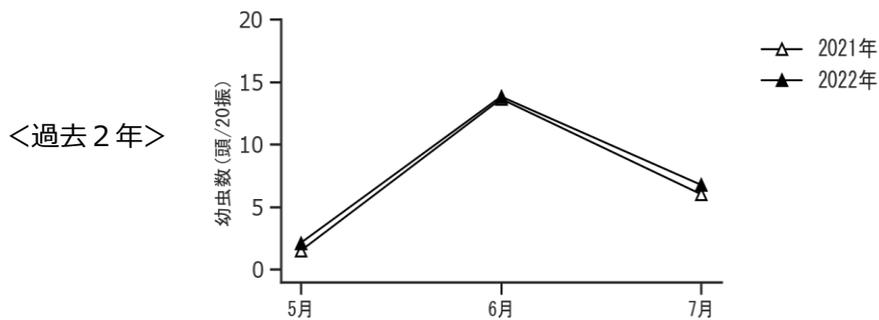
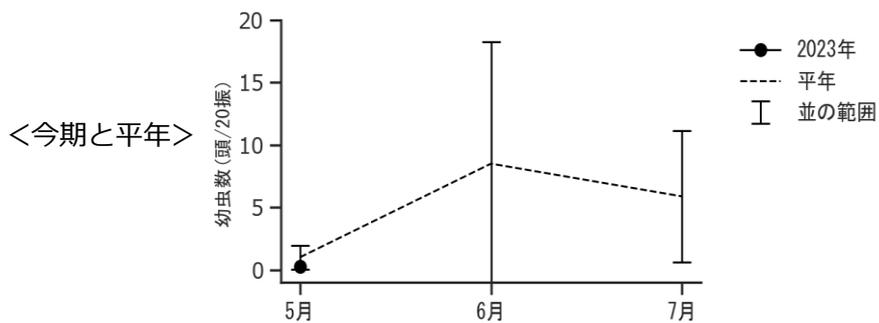
防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、植付けおよび株出し管理時から生育初期にかけての防除を徹底する。

作物	さとうきび		地域	沖縄群島
病害虫名	バッタ類			
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並		
予報	5 月からの増減傾向	↗		
	6 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

幼虫数の推移



・発生ほ場率25.0% (平年 : 36.7%)

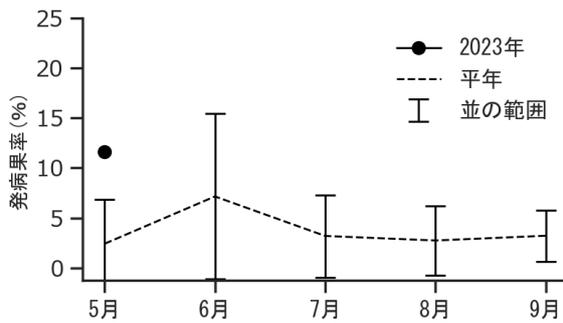
防除のポイント

- ・発生源となるほ場及び周辺のイネ科雑草の除草を徹底する。
- ・幼虫期の防除が効果的なので、6月にほ場周辺の見回りを行い幼虫の早期発見・防除に努める。

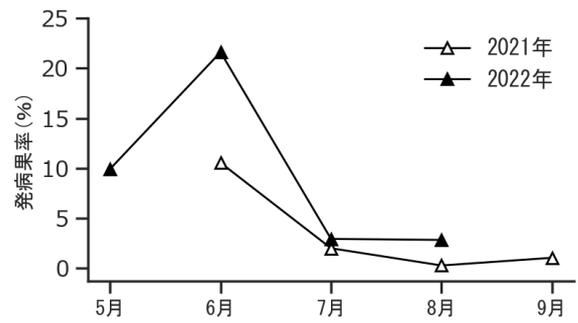
作物	かんきつ（温州みかん）		地域	沖縄群島
病害虫名	① そうか病			
調査結果	5 月の発生量（平年比）	やや多		
予 報	5 月からの増減傾向	↗		
		6 月の発生量（平年比）	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

調査結果

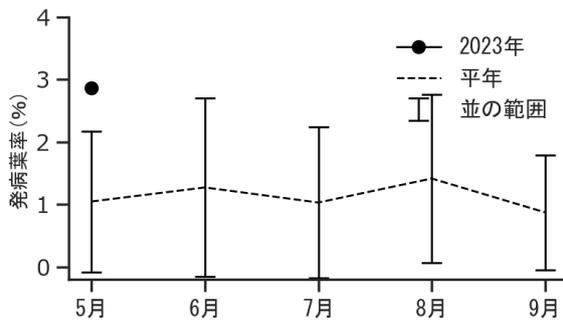
発病果率の推移（今期と平年）



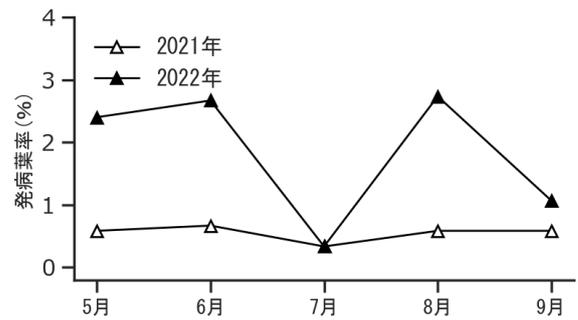
発病果率の推移（過去2年）



発病葉率の推移（今期と平年）



発病葉率の推移（過去2年）



- ・ 果実の発病度3.7（平年1.7）
- ・ 発生ほ場率40.0%（平年：27.0%）

防除のポイント

- ・ 罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

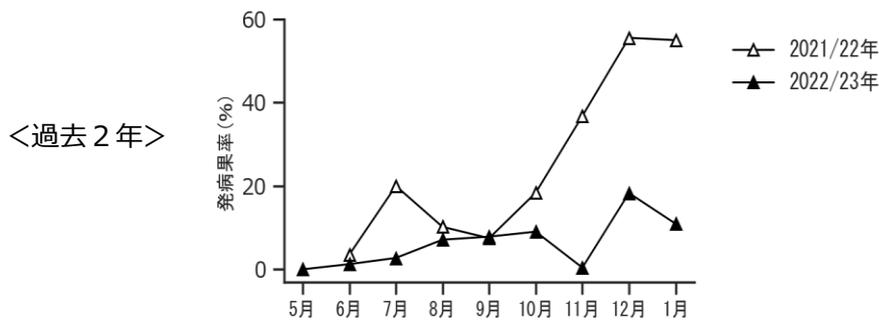
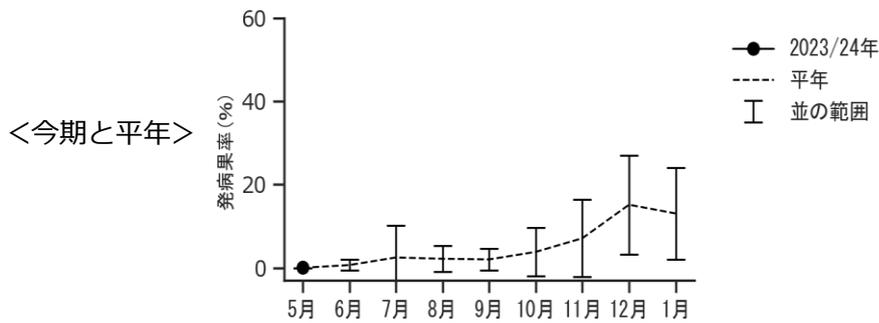
被害果→



作物	かんきつ（タンカン）		地域	沖縄群島	
病害虫名	① 黒点病				
調査結果	5 月の発生量（平年比）	並			
予報	5 月からの増減傾向	→			
	6 月の発生量（平年比）	並			
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）			

調査結果

発病果率の推移



- ・ 果実の発病度0.0（平年0）
- ・ 発生ほ場率20.0%（平年：0%）

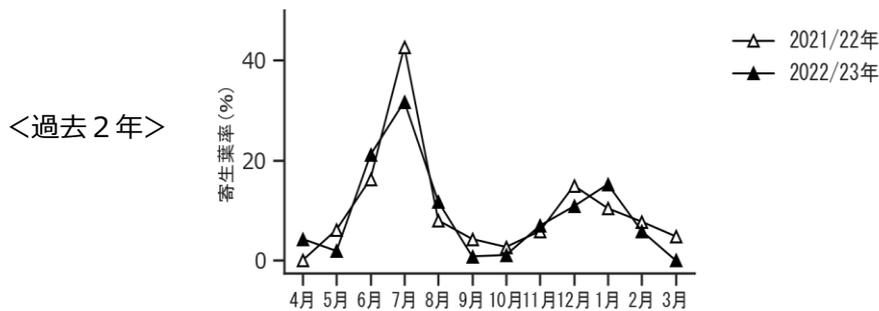
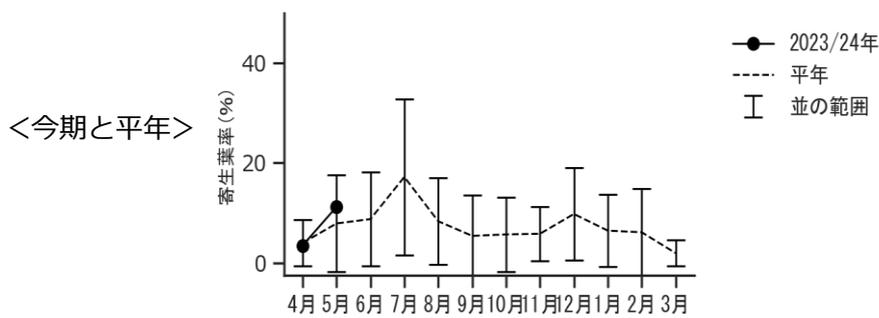
防除のポイント

- ・ 周辺の防風樹も含め、枯れ枝は除去する。
- ・ ほ場内の通風、採光を良くするために、間伐、せん定等の管理を徹底する。

作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	② ハダニ類		
調査結果	5 月の発生量（平年比）	並	
予報	5 月からの増減傾向	→	
	6 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）	

調査結果

寄生葉率の推移



- ・発生種：ミカンハダニ
- ・発生ほ場率20.0%（平年：43.2%）

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



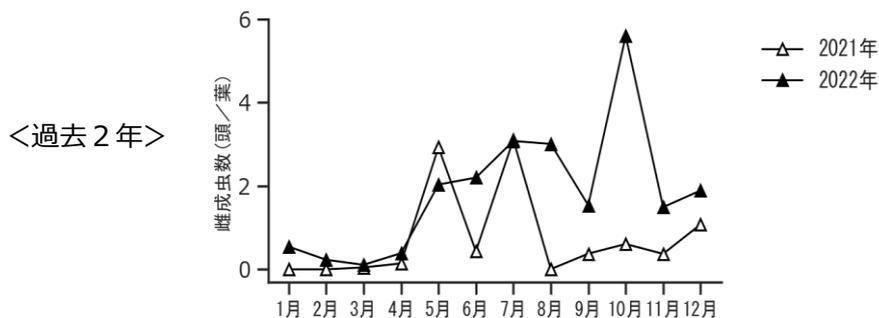
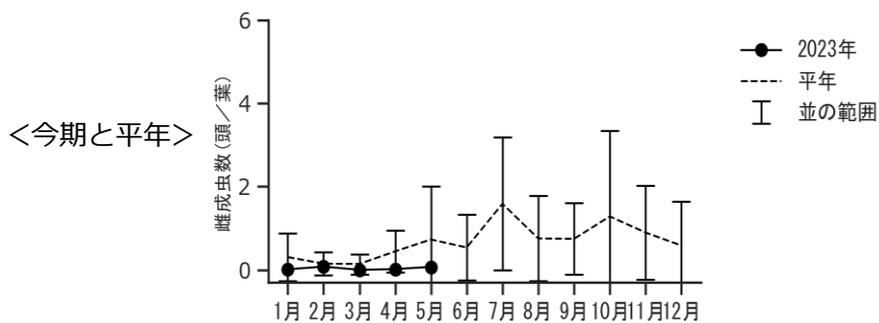
ハダニの寄生による葉のかすれ症状

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	① ハダニ類		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	↓	
	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	



調査結果

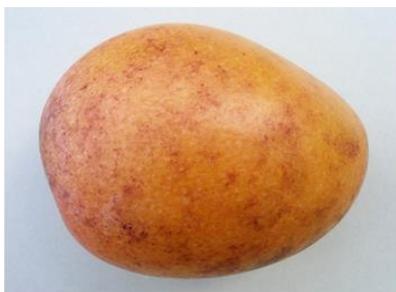
雌成虫数の推移



- ・発生種：シュレイツメハダニ、マンゴーツメハダニ
- ・発生施設率37.5% (平年：49.3%)
- ・一部のほ場で果実への寄生が多く見られた

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による果実のまだら症状



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

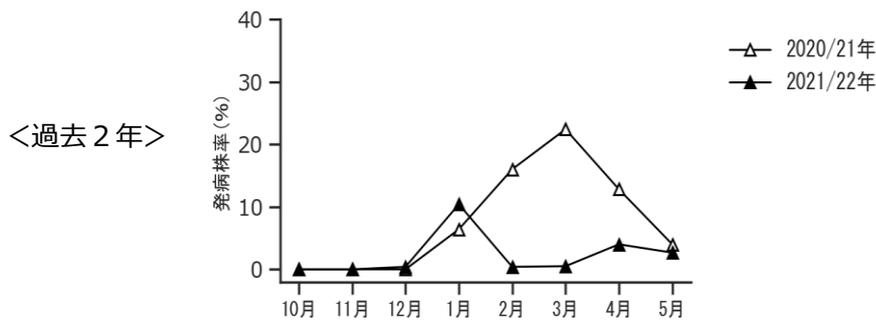
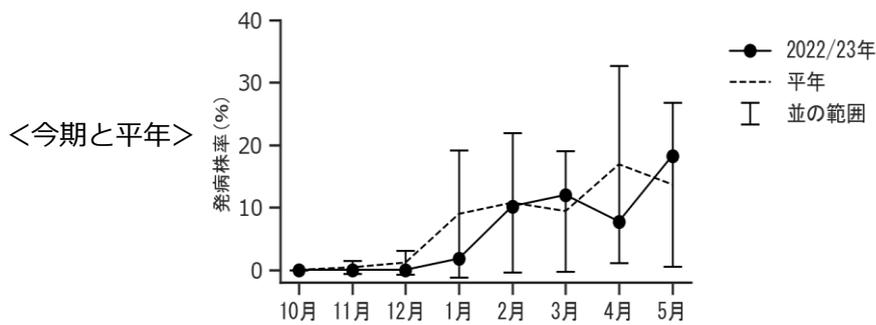


マンゴーツメハダニ

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	うどんこ病		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	—	
	6 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

発病株率の推移



・発生施設率85.7% (平年 : 46.5%)

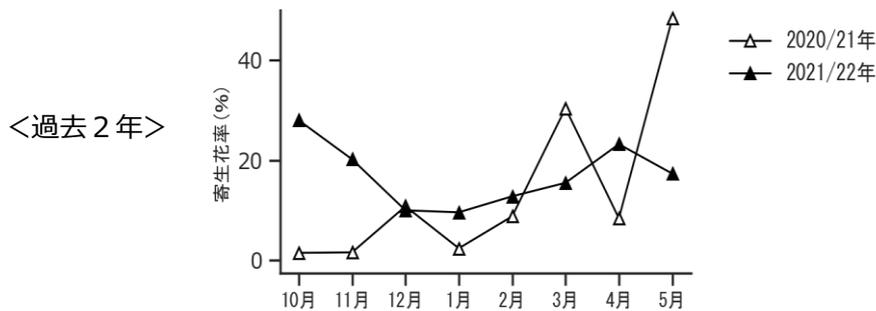
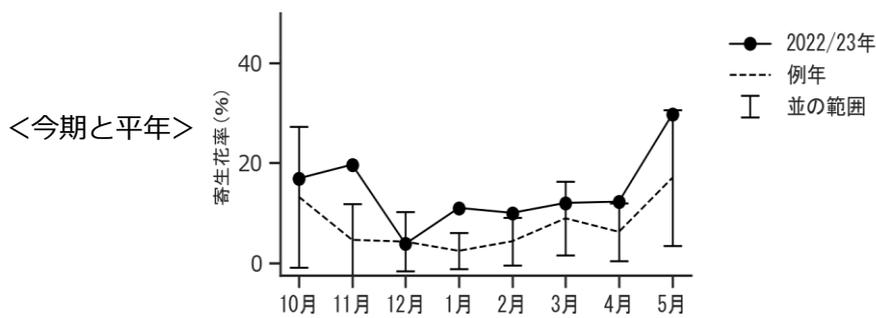
防除のポイント

- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・罹病葉は伝染源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・多発すると防除が困難となるので、葉をよく観察し早期発見・防除に努める。

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	ヒラズハナアザミウマ		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	—	
	6 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

寄生花率の推移



・発生施設率85.7% (例年 : 55.6%)

防除のポイント

- ・主に花に寄生し、多発すると産卵により果実ヘタ部や果梗部が黒変する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、初期防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、天敵に影響の少ない薬剤を選定する。

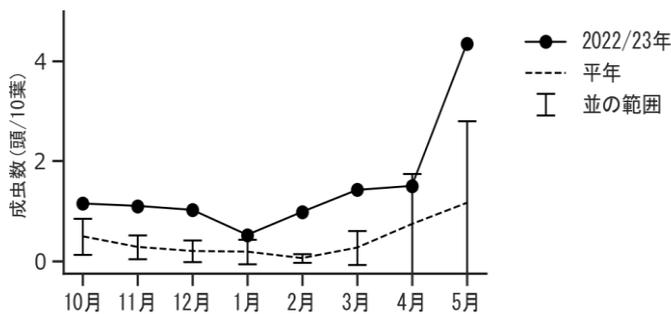
作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	タバココナジラミ		
調査結果	5月の発生量(平年比)	やや多	
予報	5月からの増減傾向	—	
	6月の発生量(平年比)	—	
予報の根拠			



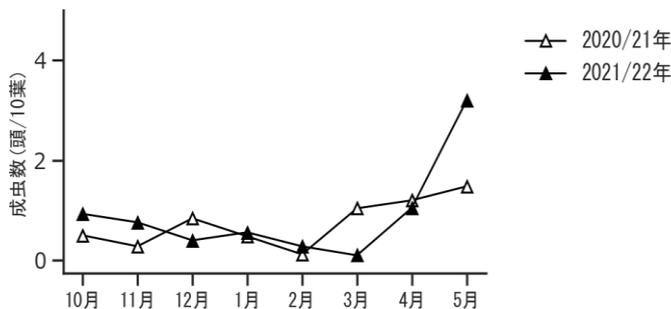
調査結果

成虫数の推移

<今期と平年>



<過去2年>



・発生施設率100% (平年：42.1%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窗は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・多発すると果実の着色異常やすす病を引き起こすため、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・天敵を利用している施設では、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を選定する。

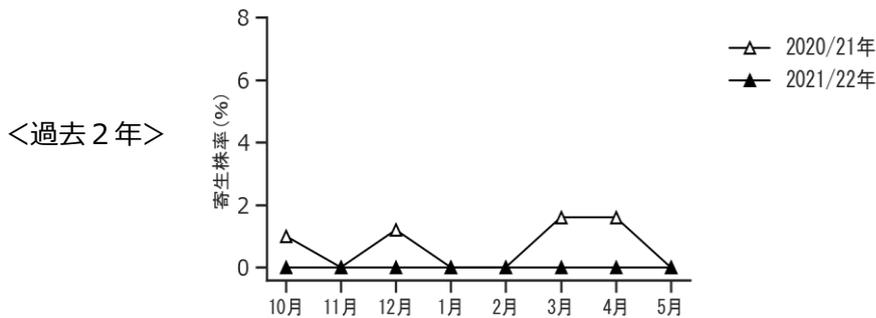
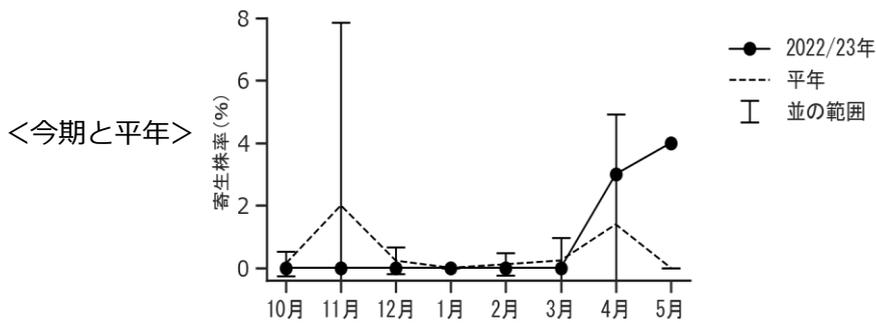


幼虫

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	アブラムシ類		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	5 月からの増減傾向	—	
	6 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

寄生株率の推移



・発生施設率28.6% (平年：0%)、一部施設で多発

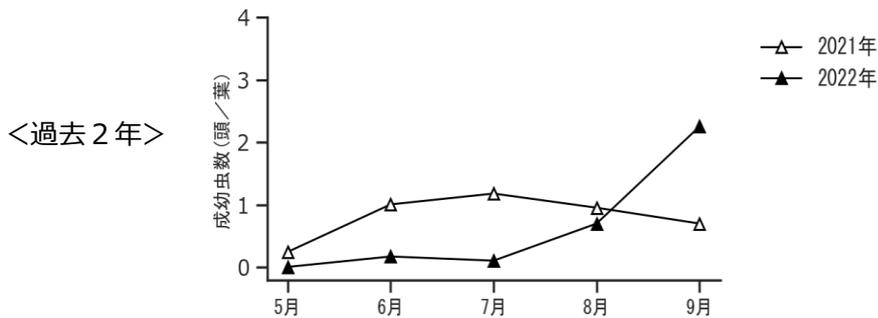
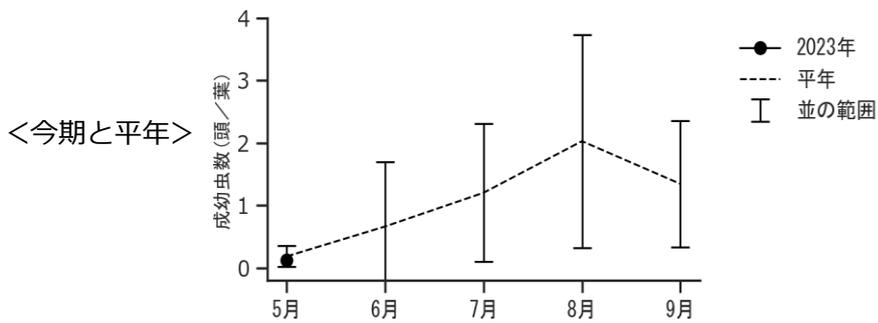
防除のポイント

- ・アブラムシ類はキュウリモザイクウイルス等を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、有翅虫の侵入を防ぐ。
- ・早期発見に努め、薬剤が葉裏にかかるよう丁寧に散布する。

作物	オクラ		地域	沖縄群島
病害虫名	① フタテンミドリヒメヨコバイ		 <p>成虫</p>	
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並		
予報	5 月からの増減傾向	↗		
	6 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

成幼虫数の推移



・発生ほ場率60.0% (平年 : 59.1%)

防除のポイント

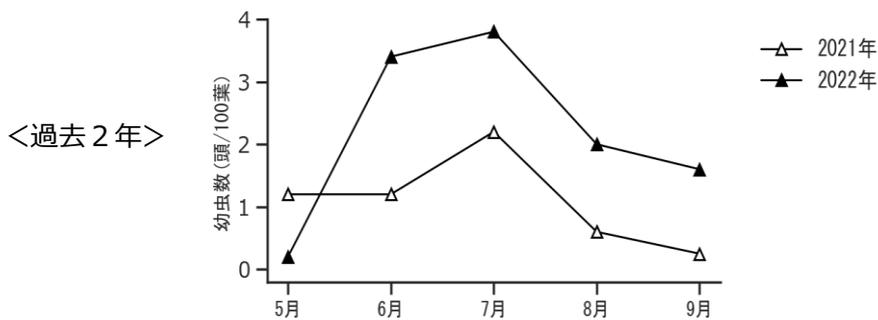
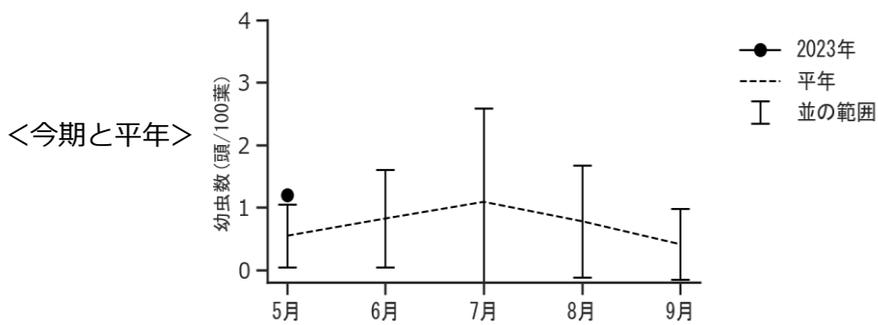
・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。



作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	② チョウ目幼虫		 <p>ハスモンヨトウ</p>
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	5 月からの増減傾向	↗	
	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

幼虫数の推移



- ・発生種：ハスモンヨトウ、ワタノメイガ
- ・発生ほ場率60.0% (平年：31.8%)

防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・食害痕を発見したら、速やかに薬剤を散布する。

